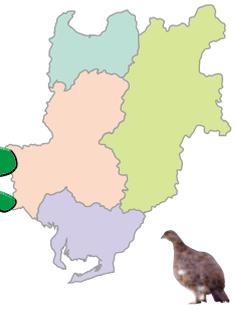




国民の森林・国有林

広報

中部の森林



中部森林管理局

〒380-8575 長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>



記者発表の様子

「コンクリート社会から木の社会へ」

平成22年度中部森林管理局事業概要を公表

(P2~3に関連記事)

主な項目	○ 平成22年度中部森林管理局事業概要を公表	P2~3
	○ ラジオで国有林をPR	P4
	○ シリーズ現場最前線	P7
	○ 風景紀行	P8

平成二十二年度 中部森林管理局事業概要を公表

「コンクリート社会から木の社会へ」

四月二十六日、平成二十二年度中部森林管理局の事業概要について、記者発表を行い公表しました。

一 取組方針

中部森林管理局は、公益的機能の維持増進を旨として、平成二十年十二月に策定された「国有林野の管理経営に関する基本計画」や昨年十二月に策定された「森林・林業再生プラン」を踏まえ、開かれた「国民の森林」としての国有林野の管理経営や民有林との連携を推進しているところです。

平成二十二年度については、民有林施策との一層の連携を図りつつ、地球温暖化防止や生物多様性の保全をはじめとする国民のニーズに応えた多様で活力ある

森林の整備や木材の安定供給等に率先して取り組むべく、以下の項目などを中心に事業を実施していきます。

二 公益的機能の持続的発揮

管内の国有林野は、「日本の屋根」と呼ばれる日本アルプスを中心とした脊梁山脈や重要な水源地に広く分布していることから、安全・安心な国土管理の要として、国土保全・水源かん養・地球温暖化の防止等に果たす国有林野の役割や国民の期待等を踏まえ、森林の公益的機能の持続的発揮や地球温暖化の防止に取組みます。

(一) 国土保全や地球温暖化防止等に資する健全な森林づくり

— 森林整備事業等 —

山地災害の防止、水源かん養等の公益的機能の発揮に加え、森林吸収目標千三百万炭素トンの達成に向けて吸収源としてカウントできる森林を効率的かつ確実に増やすため、森林整備事業等による間伐等の着実な実施に努めるとともに、長伐期化、天然力を活用した針広混交林化など、多様で健全な森林づくりを推進します。

(二) 森林整備や木材利用を進めるための路網の整備 — 林道事業 —



列状間伐の実施 (飛騨署)



スギの間伐材を利用した路面基礎部の土留工 (木曽署)



溪流の保全に配慮した工法 (中信署)

間伐などの森林整備に必要な路網を計画的に整備するとともに、間伐材の搬出・利用を図る利用間伐の拡大に積極的に取り組むため、開設コストの低い作業道などを主体とした路網の整備を加速化します。

(三) 国民の安全・安心の確保のための国土保全対策 — 治山事業 —

荒廃地の早期復旧等を図るため、間伐等による災害に強い健全な森林づくりを進めるとともに、集中豪雨や地震等により発生した崩壊地等を治山施設の整備に

より早期に復旧し、下流への被害を未然に防止します。

三 生物多様性の保全

貴重な森林生態系等を国民共通の財産として適切に保全・管理するため、保護林など優れた自然環境を有する森林の保全・管理、希少な野生動物植物種の保護管理、野生鳥獣との共存に向けた取組や森林環境教育を推進します。



高山植物を保護する防護柵の設置 (南信署)

四 木材の安定供給及び利用の推進

木材の効率的な利用及び安定供給のため



間伐材の安定的な供給 (南木曽支署)



高性能林業機械の活用（東信署）

め、間伐材の搬出・利用を図る利用間伐の推進や需要動向等に応じた計画的な生産・販売の推進、公共施設やバイオマス等としての木材利用の推進に取組みます。

五 地域の森林・林業を支える取組

各署等の素材生産請負事業地における現地検討会等により、地形・林況等にに応じて路網と高性能林業機械等を組み合わせた低コスト・高効率作業システムの普及・定着に取組むとともに、技術指導等による林業事業者の育成や、民有林と国有林が混在している地域等においてスケールメリットを活かしたより効率的な森林整備を進めるため、地方公共団体等との森林整備の推進等に関する協定の締結や、これに基づく民有林・国有林が一体となった「森林共同施業団地」の設定等に積極的に取組みます。

八 透明性の高い形で国有林野の管理経営の推進

森林計画の策定における地域に根ざし



人材育成等の協定の締結（信州大学農学部）

六 地域振興等への寄与

自然休養林等のレクリエーションの森について、地元協議会との連携・協力やサポーター制度の導入等による民間活力の活用により施設整備等に取組むとともに、これらを広く国民に保健休養の場として提供し、住民の福祉の向上や観光等、地域の振興に貢献します。

七 技術の向上や人材の育成

森林の公益的機能の持続的発揮を図るため、地域の特色やニーズを踏まえた森林施業法や路網作設法等の技術の開発・普及に計画的に取組むとともに、大学等とも連携して森林施業技術等の開発・普及や人材育成のための研修・技術検討会等を実施します。

「企画調整室」五月十二日～十三日、森林管理局において署長等会議が開催され、局長会議（四月二十二～二十三日開催）の内容を踏まえた指示が伝達される

第二回森林管理署等会議を開催

平成二十二年度

<http://www.rinyamaf.go.jp/chubu/>

なお、平成二十二年度中部森林管理局事業概要につきましては、HPに掲載しておりますので、詳細についてはそちらをご覧ください。



地域住民との懇談会の開催（尾張西三河森林計画区：瀬戸市・愛知所）

た幅広い情報等の反映や国有林モニター制度等を通じた国有林への要請等の反映など、国民の皆さんとの双方向での情報等の受発信により、透明性の高い形で国有林野の管理経営を進めます。

全体会議では、城土局長及び竹林次長から

①国有林野事業改革②予算編成・執行改革と収支差管理③森林・林業再生プラン④国産材の安定供給及び利用推進⑤吸収源対策等の森林整備の推進⑥綱紀の粛正・風通しの良い職場環境⑦生物多様性の保全への取組推進⑧野生鳥獣害対策⑨民有林との連携等⑩山地災害発生時の民有林との連携⑪労働安全確保等についての訓辞が行われた。また、各部長から具体的業務運営等について指示が行われた。

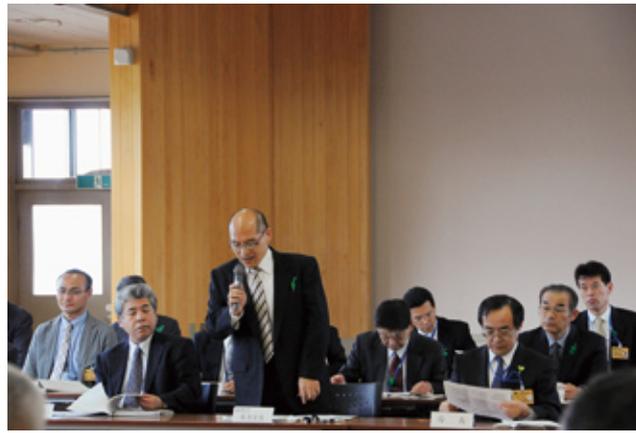
引き続き林野庁石井監査室長から、



城土局長の訓辞

「森林・林業再生プランの具体化及び国有林野事業の一般会計化について」の現状、取り巻く情勢について説明がされた。

また、今回の署長会議に合わせ、林野庁監査室から「監査指摘事項の再発防止に係る指導」等も実施され、短時間の中で中身の濃い会議となった。



林野庁石井監査室長の説明

**ラジオ番組で
国有林をPR**

「南信署」四月十三日、長野市のFMゼンこうじのスタジオでラジオ番組「みどりとみずと」の収録に井元森林ふれあい係長が出演し、国有林のPRを行いまし

た。

「みどりとみずと」は長野県環境保全協会の提供により、長野県の企業・団体・個人の優れた環境保全活動等を広く県民に紹介している番組で、三月に信州大学農学部で一般者を対象に開催された「森林に学ぶネットワーク」において、二十年度業務研究発表会のテーマ「地域のニーズを引き出す取り組み」『郷学官』共同企画による森林林業の普及」を発表した際に、会場で聞いていたFMゼンこうじの方から「この取組みを、善光寺平に住む皆さんにも知っていただきたい」とのオファーにより、今回の収録となったものです。

収録内容は、大学生と森林官が共同し地区の森林ガイドとして活動するまでの経緯を中心に紹介しました。

また、森林管理署や森林官の業務等に



スタジオの収録風景 (左：森林ふれあい係長)

ついてもインタビューを受けました。

今回の収録内容は、四月十七日、四月二十四日、五月一日の十時四十五分から十五分程度放送されました。

一般の方々にとって国有林はまだ身近な存在とは言いがたいところですが、引き続き国民視点に立った業務遂行と積極的なPR活動の展開等を通じ、地域からの信頼、国民の幅広い理解と支援を得るよう努めていきたいと考えています。

林建協働に対する技術指導

「森林技術センター」平成二十二年三月十八日、森林技術センター職員が下呂市内の民有林で完成した三路線の作業道について技術評価を行いました。これは、林業と建設業の連携による地域経済の活性化を図るため設立された「ひだ林業・建設業森づくり協議会下呂部会」から、作業道作設現地検討会の講師派遣の要請に基づき指導したもので、この度、完成した三路線の作業道について技術評価を行ったものです。

当日は、新規林業参入建設業者六社と森林組合が参加し、切り土高の抑制、路面水の分散、洗越しの作設方法等作業道施工上の留意点やスイッチカーブの作設方法について技術指導を行いました。

参加者は、地形、土質等に応じた作業道の作設方法等について熱心にメモを取

る等、新規林業参入に強い意欲を燃やしていました。

森林技術センターでは、新規林業参入者を対象にこれまで講習会（座学・実技）や現地検討会の開催等、併せて五回実施してきており、延べ百十名の民有林技術者を育成してきたところです。



完成した民有林作業道において評価



粘土を使ってスイッチカーブの作設方法を説明

各地からのたより

野鳥の宝庫で小鳥の巣箱掛け 長野市立戸隠中学校

「北信署」四月十五日、長野市立戸隠中学二年生三十三名が、まだ多くの雪が残る早春の戸隠森林植物園で、愛鳥週間に先駆けて小鳥の巣箱掛けを行いました。当日は、四月中旬とは思えない寒さでしたが、寒さを感じさせないほど、元気で明るい生徒ばかりでした。

生徒たちは、北信署員から巣箱を掛けるのに適した木、高さ、方向などの説明を受けたあと、自分たちで選木し、自作した巣箱を針金で固定していました。生徒の中にはハシゴを登るのを怖がる生徒もいましたが、他の生徒が下でハシゴを支え、「大丈夫！頑張れ！」と励まし、協力し合う姿も見られました。

同校の小鳥の巣箱掛けは、今年で三十八回目を迎える伝統行事となっております。



どんな小鳥が来てくれるかな

り、「鳥に関心を持ち、鳥類の生態について学ぶ」、「自然に親しみながら自然や動植物の保護への理解を深める」ことを目的に、当園で昭和四十八年から行っています。現在、園内には約百五十個ほどの小鳥の巣箱が掛けてあり、その九割が小鳥に利用されています。

今年の名古屋で、生物多様性条約締結国会議、「COP10」が開催され、ますます自然環境に対する関心が高まる中、野鳥の宝庫として全国的に有名な戸隠植物園での巣箱掛けは、来園者にも自然や動植物の保護への理解を深めることとなります。

当園は暖かくなると湿地になり、若葉が芽吹く五月上旬頃から、小鳥たちが巣箱を利用する姿が見られます。

小諸森林事務所が完成

「東信署」浅間山の裾野に位置する「坂の町 小諸市」に建築中の小諸森林事務所が去る三月十八日に完成しました。

旧庁舎は、敷地が二百八十六平方メートルと狭く進入路も幅約二メートルと狭かったため、小諸市のご厚意により高台に位置し立地条件も良好な市有地三百六十二平方メートルを借地し新築に至りました。

新築された建物は、地域材のカラマツ等約二十一立方メートルを使用し、外壁の一部には、カラマツ板を張るなど木の暖かみを感じられ、森林事務所としてふさわし

い建物となりました。

◆新住所◆

〒三八四〇八〇一
小諸市甲字下御堂三六七八番二六
(電話番号は変わりません)



新築された事務所の看板を掲げる
安永署長と飯島首席森林官

榎谷・大洞合同森林事務所が完成

「岐阜署」岐阜県下呂市小坂町湯屋地区に新築工事を進めてきた榎谷・大洞合同森林事務所が三月十九日に完成しました。

両森林事務所の宿舎が老朽化したことから、宿舎と森林事務所を併設し新築したもので、床面積百五十七平方メートル(中央事務所三十九平方メートル、宿舎(二戸)部分百十八平方メートル)の平屋建てで構造材にスギ・ヒメコマツ・ヒノキを使用、内装材にはカラマツ材を使用し、木の温もりを感じさせる建物となりました。

(小黒川、濁河、榎谷、大洞の合同森林事務所として業務を行ってまいりましたが、今後は小黒川・濁河合同森林事務所と榎谷・大洞合同森林事務所二つに分かれ執務することとなりますので、電話連絡等は注意をお願いします。)



看板を掲げる坂元前署長と
小林・水野森林官等

大桑村林政懇談会の開催

「南木曾支署」去る三月十七日、大桑村村長、議長はじめ八名、南木曾支署からは支署長はじめ六名が参加して林政懇談会を開催しました。

今年度、阿寺溪谷沿線で行われている修景事業や林道の改良工事の状況等を見学しながら検討を行った。阿寺溪谷は大桑村の観光の拠点の一つで、夏季の保養の場のみならず清流と森の四季の移り変わりを見に年間を通して入り込みが多い所です。

また、溪谷内には岩間から湧き出る冷水「美顔水」が長野県の「信州の名水」



あいさつする廣田支署長

「秘水」に認定され、今後多くの方が名水を汲みに訪れることが予想されることから、水源や水場の保全と活用の両面から現地で検討を行いました。

現地検討後、大桑村役場会議室に場所を移し、来年度の業務計画等の策定方針について意見交換を行いました。阿寺溪谷一体は、大桑村としても観光の重要な位置づけであり、支署としても森林整備等推進の重要な地域であることから、今後も引き続き協力していくことで意見が一致しました。

そのほか、伊奈川溪谷から中央アルプスに向かう登山道の新規貸付の協議が整うなど、益々協力的体制が整いつつあり今後に向けて有意義な林政懇談会となりました。

地域での「ハナノキ」の保護活動 本格的スタート

「南木曾支署」四月二十一日に大桑村阿寺溪谷において、「はなのきを育む阿寺溪谷」と題した行事を実施しました。

この行事は、昨年六月に林木育種センターでさし木増殖をしたハナノキの里帰りをしたこととから、今年度は保護活動を継続することを参加者全員で確認することを目的に開催しました。

当日は大桑村長をはじめ、大桑村議会、阿寺溪谷の整備活動を行っている阿寺ふれあいエコクラブ等、四団体から約三十五名の参加を得ました。

村長から「ハナノキと出合いをきっかけに、阿寺溪谷の美しさを大桑村として情報発信したい」等のあいさつをいただき、ハナノキのPR用の木製看板の除幕後、飯田市でハナノキの保護活動を行っている「はなのき友の会」会長の北沢あさ子さんから、ハナノキの保護や周辺環境保全の必要性等について講演を受け、「保護活動は、保護することだけを目的とするのではなく、保護活動を通じてみんなが楽しむことが大切である」など今後の阿寺溪谷の保護活動のあり方についてアドバイスをいただきました。

講演終了後は参加者全員でハナノキ踏み荒らし防護柵の設置、灌木除去作業に汗を流し、参加者からは、「地元だけではなく、観光客にもハナノキの貴重さを

わかってほしい」「保護活動を通じて阿寺溪谷の溪谷美を守っていききたい」等の感想も出されました。

今後は「ハナノキの保護」だけではなく、阿寺溪谷を地域の宝として、地元・各種団体と協働し保護・管理を進めていくこととしています。



新たに作成した看板の前で記念撮影

名古屋シティフォレスト事業

—金華山国有林
—土壌保護マットの敷設—

「岐阜署」五月十三日に「黄金の華咲く、金華山の森林土壌を回復しよう！」をテーマに、第二回名古屋シティフォレスト事業を金華山国有林にて実施しました。金華山は都市近郊にある貴重な自然であること、また、織田信長が天下統一の際に拠点とした岐阜城があり歴史的な



植生マットを敷設する参加者

価値も高いことから、多くの人が訪れて登山や観光を楽しんでいます。

その一方で登山者の歩道の踏み外しや流水などにより、林地の裸地化も進行していることから、植生回復マットの敷設を名古屋シティフォレスト事業として企画したものです。

当日は風が強く少し肌寒くはありまし



出来映えもバッチリ



巣箱づくりを体験

「名古屋事務所」 四月二十九日に「じよ

定光寺自然休養林で 「みどりのフェスティバル10」 盛況に開催

たが青空ののぞく好天の中、十九名の隊員が植生マットの運搬及び敷設を行いました。

急斜面に張り付きながら金槌により止め杭を打ち込むという作業でしたが、職員やアドバイザーの指導の下、最初はこちなかった作業も終わる頃には驚くほど綺麗に仕上がりに、隊員もその出来映えに満足していました。

作業終了後には金華山へ登る隊員も多く、好評のうちに一日の作業を終りました。



丸太切りに挑戦

うこうじ響きの森で木と友達になろう」をテーマに、名古屋事務所、愛知森林管理事務所、瀬戸市まるつとミュージアム、観光協会主催による「みどりのフェスティバル10」を、瀬戸市にある定光寺自然休養林（じよこうじ響きの森）森林交流館周辺において開催しました。

当日の朝は激しい雨に見舞われ入場者数が心配でしたが、午前十時の開場前には雨は上がり、約二千名の方が来場されました。

今年の十月に名古屋市で開催される生物多様性条約第十回締約国会議（COP10）を盛り上げるために、オープニングにCOP10記念植樹としてクロガネモチ（瀬戸市の木）とヤブツバキ（瀬戸市の花）を一般市民の方々と植樹しました。

体験コーナーでは、丸太切り、ネイ

チャークラフト、巣箱づくり、火おこしなど。学習コーナーでは、森の紙芝居、森林のクイズなど。また、アトラクションでは、モリゾー・キッコロが森から登場し、子供たちと写真撮影、国産間伐材で作られた楽器「ミンミン」の演奏やチェーンソーによる彫刻「チェーンソーパフォーマンス」があり、数多くの協賛団体による出展で会場は終日どのコーナーも大賑わいとなりました。

今後とも、地域の皆さんに気軽に自然と触れあっていたく場を提供するとともに森林・林業をPRし、森林づくりの輪を広げていきたいと思えます。

シリーズ 現場最前線

匠の技が光る蘭班

「南木曾支署蘭森林事務所班」蘭班の所属する蘭森林事務所は、南木曾町の南部、木曾川へ注ぐ蘭川を中心として南北へ広がる南蘭、北蘭国有林、国道十九号線沿いの賤母国有林の約三千鈔を管轄しています。

管内は、ヒノキを中心とした人工林が面積の約半分を占める他、中山道の馬籠宿から妻籠宿へと続く道は美しい景観を構成する天然林の林が続いています。

蘭班は製品生産事業の経験を持つ七名体制。事業内容は、除伐2類、枝打、つ



蘭班（分収育林の明認作業）

る切、歩道整備、カモシカ防護柵点検・修理、分収育林明認、林道維持修繕、境界巡検など多岐にわたります。隣接する広瀬森林事務所の管轄区域でも事業を行っていきます。

班員七名の七つの個性と匠の技が一つとなつて蘭班の原動力を生み出しています。お互いの個性や技を理解し合える雰囲気もあり、それが山づくりへの熱意と日々の安全作業に繋がっているものと感じています。

今年度末で三名の方が退職を迎えます。これまで培ってきた技や経験を次の代へ。班長を中心にミーティングや安全懇談会のなかで十分に議論し、実行し、また議論してよりよい職場環境を目指していきます。



浅間山麓の森林

〔東信署〕浅間山（標高二千五百六十八メートル）は、長野県軽井沢町、御代田町と群馬県嬭恋村との境にあり、我が国有数の活火山として知られています。

なだらかな裾野を引く浅間山の山麓では、冷涼な気候などの自然環境から、観光やリゾート地としての開発が進んでいきます。浅間山の南側は、標高千メートル付近までが国有林となっており、訪れる人々が身近に国有林と接することができます。

浅間山麓を東に向かうと、リゾート地として知られた軽井沢があります。軽井沢の星野温泉近くに、詩人北原白秋の代表作「落葉松」の詩碑が建っています。

からまつしの林を過ぎて、からまつをしみじみと見き。からまつはさびしかりけり。たびゆくはさびしかりけり。と始まるこの詩は、大正十年、白秋が当地を訪れたときに詠んだものとされ、多くの文学作品の舞台となった軽井沢の往時の情景が偲ばれます。

この場所に隣接する国有林は、「国設軽井沢野鳥の森」として、今は、自然とのふれあいを求めて訪れる多くの人々で賑わいをみせています。

古代、軽井沢辺りには、「勅旨牧」のひとつ「長倉の牧」があったといわれています。「勅使牧」とは、平安時代、朝廷に納める馬を生産するため、天皇の勅旨により置かれた牧場で、「長倉の牧」は軽井沢一帯の広大な面積を占めていたと考えられています。

軽井沢町内には、「駒飼いの土手」と呼ばれる「長倉の牧」の牧場跡が残っています。この「駒飼いの土手」は、浅間山麓から浅間山の側火山「石尊山」に登る途中の国有林内にもその痕跡がみられ、今は森林に覆われるこの辺りも、かつては広大な草原を馬が駆ける牧野であったことがうかがえます。



石尊山登山道

また、軽井沢から浅間山麓を西に向かった御代田町の国有林では、江戸時代末期に小諸藩によって植栽されたとされる日本最

古のカラマツ人工林や、「霧上の松」として有名なアカマツ天然林の群落を見ることが出来ます。学術的に貴重なこれらの森林は植物群群落保護林として保護されています。



日本最古のカラマツ人工林

気候冷涼な浅間山麓では、これから行楽の好季を迎えます。

活火山特有の自然条件や歴史による森林景観の成り立ちにも思いをはせながら、初夏の浅間山麓を散策してみたいかがででしょうか。

◆アクセス方法

マイカー利用の場合、上信越自動車道小諸インター又は碓井軽井沢インターから三十分から四十分程度



軽井沢野鳥の森



浅間山遠景

行事・会議等の予定

- ◎親子の森林体験教室
6月5日 北信署管内
- ◎名古屋シティ・フォレストスター事業
6月9・18日 岐阜・木曽署管内
- ◎森林ふれあい講座
6月12日 愛知所管内
- ◎会計実地検査
6月14～18日 中信・木曽署、南木曾支署、局